

ひしめき合う
列車内で
目の前のおケツを
弄ぶ男
ブルブル全身を
震わせ
喜ぶ少女

ひしめき合う列車内で

目の前のおケツを弄ぶ男

ブルブル全身を震わせ喜ぶ少女

薄暗い**灰色の空**。

今にも降り出しそうな湿り気のある空気。

玄関を出ていつものように最寄りの駅へ向かう。

昨夜の残業の疲れで寝坊し、朝食もまともに食べていない。

急いで着たためまだ皺がたくさん残っている背広を気にしながら、ネクタイも付けていない状態で駆け足で電車に乗り込む。

・・・人間の価値には2種類あると思っている。

一つは社会的価値。

もう一つは**人間的価値**だ。

社会でどれだけ認められようと、つまり社会的価値がどれだけ向上しようと、人間的価値は交じり合うことのない独立した軸だと思う。もちろん逆も然りだ。

長年平（ひら）で勤め上げ、真上に広がった額と体臭だけは加齢に伴い立派なものとなったものの、ここ何年も恋人の一人も出来ない弧男の俺。

いつも冷たい風が自分の周囲をとりまいている。

しかしそれでも、

人間としての価値は

“人一倍”

あると自負しているのだ。。。。。

「ムサツ・・・ハシユムツ・・・ムシユルムツ・・・」

ひしめき合い、ざらついた衣服の繊維同士が擦れ合う限りなく満員に近い通勤列車の中。

斜め下70度、手を伸ばして90cm先にある**こんもりお肉の山**を揉みしだきながら俺は自分の

“人間的価値”

を噛みしめる。

「ムシユシユ・・・ハシユル・・・シユルル・・・」

サラサラの黒髪が首上までしかないショートカットの少女だ。○学生の制服を着ている。

右斜め後方にいる俺は彼女の長くも短くもない丈のスカートをまくり上げ、お尻の“右側”の肉片を掴み、力強くモミモミ・・・いや、ブインブインと揉みしだいている。

全身の血が、この瞬間に生じる自分の価値を**性的情熱**と一緒に全身のあらゆる臓器へと運ぶ。

体験版はここまでです。

もし内容を気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけますと光栄です。